第5章

世界とつながる

東京2020大会前の最終調整として英国、ボツワナ共和国、チュニジア共和国など12か国が横浜市内で事前キャンプを実施。徹底したコロナ対策を行い、選手団から1人の陽性者も出さず選手村へ送り出した。また、市内小学生などの子どもたちとの交流機会を創出し、横浜市とホストタウン相手国との絆を深めた。

事前キャンプ

事前キャンプとは、大会前に、時差や気候への順応、コンディション調整のために行われるトレーニングキャンプのこと。横浜市は、英国、ボツワナ、チュニジアの事前キャンプを受け入れたほか、日本体育大学が実施する「戦略的二国間スポーツ国際貢献事業※」による9か国の事前キャンプ受入れをサポートした。

各国選手・スタッフのSNSでは、「これ以上ないほど素晴らしいホスト」「家のようにくつろげる場所」など感謝の言葉や横浜市の写真が数多く投稿され、英国オリンピック代表チームによる事前キャンプの様子は、国内メディアのみならずBBCなど英国メディアにより発信された。

※戦略的二国間スポーツ国際貢献事業：日本体育大学がスポーツ庁からの委託を受けて、主に開発途上国・地域のパラリンピック委員会の東京2020大会の出場支援等を実施するもの。パラリンピック競技大会への参加国の拡大に貢献した

オリンピック代表チーム　実施データ

国名	期間	人数	競技	練習施設	宿泊施設
英国	2021年 7月1日～ 8月4日 ※	630人	●アーチェリー ●ボクシング　●柔道 ●ウエイトリフティング ●バドミントン　●ホッケー ●フェンシング　●テコンドー ●体操　●近代五種　●卓球 ●水泳　●陸上　●サッカー ●7人制ラグビー ほか計22競技	●横浜国際プール ●慶應義塾大学 日吉キャンパス ●横浜カントリークラブ ●パシフィコ横浜 ペデストリアンデッキ 【川崎市内の施設】 ●等々力陸上競技場 ●補助陸上競技場	●ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル
ボツワナ共和国	7月7日～ 8月5日	24人	●陸上 ●水泳	●日本体育大学 横浜・健志台キャンパス ●武相中学・高等学校	●ホテル横浜 キャメロットジャパン
チュニジア共和国	7月10日～ 7月26日	8人	●アーチェリー ●柔道	●日本体育大学 横浜・健志台キャンパス ●鶴見スポーツセンター	●新横浜グレイスホテル

パラリンピック代表チーム　実施データ

国名	期間	人数	競技	練習施設	宿泊施設
英国	2021年 8月4日～ 9月3日 ※	189人	●陸上　●ボート ●馬術　●アーチェリー ●バドミントン　●テコンドー ●パワーリフティング ●柔道 ●車いすフェンシング	●慶應義塾大学 日吉キャンパス ●横浜カントリークラブ ●パシフィコ横浜 ペデストリアンデッキ 【川崎市内の施設】 ●等々力陸上競技場　●補助陸上競技場	●ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル ●横浜ベイホテル東急
ボツワナ共和国	8月13日～ 8月22日	7人	●陸上	●日本体育大学 横浜・健志台キャンパス ●横浜市スポーツ医科学センター	●ホテル横浜 キャメロットジャパン
戦略的二国間 スポーツ国際貢献事業 9か国（セントビンセント及び グレナディーン諸島、バルバドス、 ウルグアイ東方共和国、 ザンビア共和国、マラウイ共和国、 タンザニア連合共和国、 レバノン共和国、モルディブ共和国、 イエメン共和国）	8月14日～ 8月20日	24人	●陸上 ●水泳	●日本体育大学 横浜・健志台キャンパス	●横浜ベイシェラトン ホテル＆タワーズ

※英国事前キャンプはスタッフによる事前準備・撤収期間を含む

英国オリンピック・パラリンピック代表チーム

経緯

世界でもスポーツ強豪国であり、選手団規模の大きい英国。オリンピック代表チームとは、2016年2月に覚書の締結、2017年3月に横浜国際プールの施設利用契約の締結を行い、パラリンピック代表チームとは2018年5月に覚書を締結して、事前キャンプ実施を合意。両チームとも市内の練習施設及び宿泊施設を使用することとなり、英国オリンピック委員会や英国パラリンピック委員会と5年にわたりオンラインでの会議や視察を重ねるなど、密に連携し、調整を行った。

⬆2017年3月、英国オリンピック委員会との契約締結式

⬆2018年5月、英国パラリンピック委員会との覚書締結式

⬆横浜国際プールには何度も視察に訪れた

準備期間

事前キャンプ決定後、練習施設となった横浜国際プールの設備更新などを進め、2019年7月には英国水泳代表チームが横浜国際プールでプレ事前キャンプを行った。英国チームの市内施設でのキャンプは初であり、本番に向けたテストとして貴重な機会となった。

⬅スポーツ振興くじ助成も活用し、メインプールのスタート台20台分を国際規格に適合するよう更新。市民にとってもレガシーに

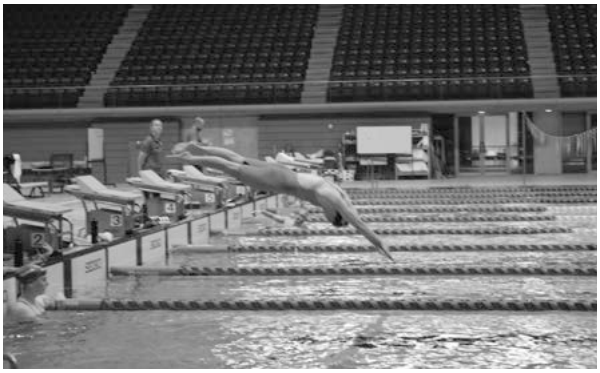
➡老朽化していた飛込競技に使用する飛込台のマットと飛板も更新。事前キャンプ本番では、東京2020大会金メダリストのトム・デイリー選手も使用した

英国水泳代表チームプレ事前キャンプ

- ●実施期間：2019年7月8日～16日（9日間）
- ●参加人数：56名（選手30名、スタッフ26名）
- ●練習施設：横浜国際プール メインプール、トレーニングルーム等

オリンピック金メダリストも輩出する英国水泳代表チームによる、世界水泳選手権大会（韓国・光州開催）に向けた事前キャンプ。横浜市は、施設との調整や警備、通訳、ボランティア（延べ33名）の配置など、キャンプ運営をサポートした。世界水泳選手権大会では、3つの金メダルを含む7個のメダルを獲得するなど、多くの選手が入賞や自己ベストを更新し、英国からは高い評価を得た。期間中は、児童との交流等も実施。

※交流の詳細については第5章「ホストタウン」（P108～参照）



東京2020大会事前キャンプ

大会延期を経て、コロナ禍という前例のない状況下で行われた東京2020大会の英国事前キャンプ。受入期間は計65日間、選手団は800人以上に及び、横浜国際プールをはじめ市内各所で練習を行った。

横浜市は、英国と市民双方の安全・安心、円滑なキャンプ運営を目標に、英国代表チームや練習施設管理者、宿泊施設事業者、国、神奈川県、東京2020組織委員会、医療機関など、様々な関係者と調整。拠点となる宿泊施設には、川崎市、慶應義塾大学と合同で運営本部を設置し、徹底したコロナ対策のため、毎日のPCR検査や、専用車両による移動時の対応、陽性疑い者発生時の対応などを実施した。

また、厳しい行動制限がある中でも、ランニングなどのトレーニングのための屋外活動場所(横浜カントリークラブ、パシフィコ横浜ペデストリアンデッキ)の確保など、英国からのリクエストに最大限対応し、選手をサポートした。

⬅⬇横浜国際プールは7月12日～31日で競泳競技と飛込競技の代表チームが使用

⬅宿泊施設での送迎

英国代表チーム東京2020大会成績

【オリンピック】合計メダル数64個
(金メダル22個、銀メダル20個、銅メダル22個)

【パラリンピック】合計メダル数124個
(金メダル41個、銀メダル38個、銅メダル45個)

川崎市・慶應義塾大学との連携

2016年の覚書締結以来、横浜市・川崎市・慶應義塾大学の3者で協力体制を構築。契約締結式等を合同実施したほか、2018年には“GO GB (ゴー・ジービー:がんばれ、英国)”を合言葉に、3者合同デザイン及びウェブサイトを制作するなど、連携して取り組んだ。

英国代表チームの協力のもと作られた合同デザインは、キャンプ前の機運醸成から大会本番でも使われ、どの施設も同じ“GO GB”デザインで飾られて一体感を醸し出した。3者合同ウェブサイトでは、各練習施設や英国代表チームの紹介、3者のニュース、コラム記事等を掲載。横浜市は4年にわたり、市内小中高生からなるジュニア記者が取材・執筆した様々なレポートをアップした。

運営面でも、3者で協力してマニュアルを作成。事前キャンプ期間中は毎日オンライン会議を実施し、スムーズな情報共有や緊急時対応を行った。慶大では、学生主体の英国代表選手団サポート組織「KEIO 2020 project」が大会前から活動。市内でも、区民まつりでのブース出展や広報よこはまへの寄稿等で地域を盛り上げ、キャンプ期間中もボランティアとして慶大日吉キャンパス内の運営をサポートした。

⬆3者合同ウェブサイトトップページ

⬅⬆横浜国際プールや、慶應義塾大学の“GO GB 装飾”

横浜ホストタウンサポーター

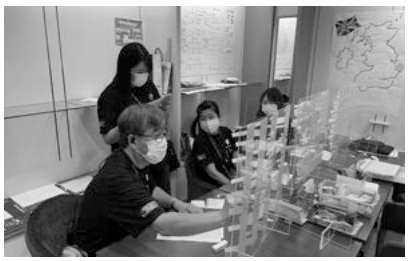
円滑な事前キャンプ運営の背景には、英国事前キャンプ横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」の活躍があった。約800人と大規模な英国選手団の受入れに向け、募集時には英語のレベルチェックも実施。毎日の運営サポートのみならず、メッセージを書き込んだ誘導時に掲げるプラカードや、選手たちに贈る日本らしいお土産も手作りし、英国代表チームが滞りなく、そしてホームのように横浜で過ごせるよう、感染症対策を徹底しつつ、心を尽くした力強いサポートを行った。

⬅募集時のチラシ。約1か月の応募期間にも関わらず、1,431名の応募があった

⬇英国からオンラインで実施した研修。ボランティアの存在の大切さや、英国代表チームの一員としての心構えがレクチャーされた

⬅2021年6月に横浜市が実施したオンライン説明会。多くの質問が寄せられ、活動への疑問を解消する機会に

➡熱烈な応援で事前キャンプを成功へ。宿泊施設では川崎市のボランティアも一緒に活動した



⬅サポーター同士でアイデアを出し合い、活動がブラッシュアップされた

⬆10月31日には横浜市イギリス館でサポーター感謝会を実施。英国チームからの感謝のメッセージビデオを放映

⬅感謝会では、実際に横浜国際プールで使用された、英国代表チーム横断幕をリサイクルし作成した世界に一つのトートバックなど記念品を贈呈

ホストタウンサポーター情報

2019年12月20日～2020年1月21日	応募期間《応募総数 1,431 名》
1月31日	抽選結果通知《当選106名》
2月19日、22日、23日	個別オリエンテーション実施
3月24日	東京2020大会開催延期 決定
10月2日	横浜ホストタウンサポーター活動継続の意向確認
2021年3月18日	研修1「英国オリンピック代表チーム・Team GB オンラインセミナー」実施
6月1日、7月3日	研修2「オンライン説明会」、研修3「オンライン研修会」実施
7月5日～8月31日	横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」活動期間
10月31日	横浜ホストタウンサポーター感謝会 実施

●活動期間：2021年7月5日~8月31日　計52日（ホテル52日、プール5日）

※活動期間中、原則5日以上活動。活動時間は、休憩時間を含み1日8時間程度

●活動場所：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル、横浜ベイホテル東急、横浜国際プール

●累計活動数：304ポスト（サポーター 47 名）

●活動内容：レンタカー使用時の駐車場誘導、スタッフ到着時のバブル動線ケア、英国バブルゾーンへの関係者以外立ち入り禁止の声かけ、プラカード作成、お土産作成、オンラインでの通訳、事務作業の補助など

英国オリンピック委員会
～謝辞～

We want to take this opportunity to thank both your team and the people of Yokohama City for all the support that you have provided to Team GB over the last 5 years. Even during these incredibly challenging times, your support of Team GB has been unwavering and this is a testament to the wonderful friendship we have built over the last few years.

We recognise the huge sacrifices that everyone in Japan has made to ensure that the Games could be held safely and it has certainly created a Games which has resonated successfully around the world. The Japanese Government and Tokyo 2020 have done an incredible job hosting and creating very special moments for all of the athletes who have taken part and for everyone who has been watching all over the world.

We also recognise the huge amount of work that has been done by Team Yokohama to ensure our athletes were kept safe and had continued access to the best training facilities. Their contribution to the success of Team GB in Tokyo is immeasurable and we are extremely grateful.

Whilst the Tokyo 2020 Games has been very different to the one that we had all imagined, the relationship between Team GB and the City of Yokohama is a real symbol of the Olympic spirit and we are immensely proud of this.

Again, thank you for everything you have done for us.

Yours sincerely,

Andy Anson
Chief Executive Officer
British Olympic Association

過去5年間にわたる英国代表チームへのすべてのご支援に対して、横浜市の皆様にこの場を借りて感謝の意を表します。非常に困難な情勢にもかかわらず、横浜市から英国代表チームに対して揺るぎないご支援をいただきました。これは、過去数年間にわたり皆様と築き上げてきた、素晴らしい友好関係の証しです。

私たちは、日本の皆様がオリンピックを安全に開催するために多大な犠牲を払ってきたことを認識しています。そのおかげでオリンピックが無事に開催され、世界中が感動に包まれています。日本政府と東京2020組織委員会の素晴らしい働きともてなしにより、参加しているすべてのアスリートと世界中で観戦しているすべての人が、特別な瞬間を味わうことができました。

また、英国代表チームのアスリートが安全に過ごし、最適なトレーニング施設に継続して通うことができるように、横浜市のチームが尽力してくださったことも認識しています。東京2020大会における英国代表チームの成功に対する横浜市の貢献は、計り知れないほど大きなものであり、心から感謝申し上げます。

東京2020オリンピックは、私たち皆が想像した以上に非常に特殊なものとなりましたが、私たちTeam GBと横浜市の関係は、まさにオリンピック精神を象徴するものであり、非常に誇らしく思います。

改めて、私たちにご提供いただいたすべてのご支援に感謝いたします。

英国オリンピック委員会CEO　アンディ・アンソン

英国パラリンピック委員会 ～謝辞～

I want to send our deepest thanks to all of you and the people of Yokohama City for your support and friendship over the last five years.

The delivery of the Games was an incredibly challenging operation, and it is down to the strength of the partnership that has been built between ParalympicsGB and the City of Yokohama over the last five years that we were able to hold our pre-Games Preparation Camp safely. Our athletes benefitted enormously from the camp, and ParalympicsGB had a very successful Games: 2nd on the medal table, 124 medals, 41 golds and countless memorable moments that will live in our hearts and minds forever.

It is hard to believe that all of this was delivered against the backdrop of a global pandemic that caused so much additional work to create a safe and secure environment for both our team and yours, as well as the general public. Thank you to everyone for going the extra mile in ensuring we remained fit, healthy, and happy throughout our time in Japan and enabling our athletes to get to their respective start lines in such great shape. It made all the difference.

We know that the conclusion of the Games is not the end of our partnership, but rather the start of a journey that we will continue to go on together. We are very grateful for all the hard work of all the staff of the team who worked tirelessly to help with our operations.

We are also very thankful for the welcome provided by the volunteers by showing their spirit and determination. They created many beautiful displays that showcased Japanese culture for the athletes, and they greeted them every day with welcoming smiles. This cultural showcase was a particular highlight for the athletes,
and really helped them to feel at home in Yokohama City.

I send my very best wishes and my thanks to the wonderful staff team in Yokohama.

Very best wishes,

Mike Sharrock
Chief Executive Officer
British Paralympic Association

横浜市の皆様からこの5年間にいただいたご支援と友情に、改めて心より感謝申し上げます。

本大会の開催においては、非常に困難な課題にも直面しましたが、横浜市の皆様と5年の年月をかけて築き上げた強力なパートナーシップのおかげで、英国代表チームの事前キャンプを安全に開催することができました。英国選手はキャンプによる多大な恩恵を得て、英国パラリンピック代表チームとして大成功を収めることができました。メダル総獲得数は124個で世界第2位、このうち金メダルは41個という素晴らしい結果でした。また、メダルの数だけではなく、数えきれないほどの永遠の思い出が私たちの心に刻まれました。

世界的なパンデミックの中、英国チームだけでなく横浜市の関係者や市民の皆様にとっても安全安心な環境を確保するために、非常に多くの苦労や時間が要求された本当に困難な状況の中で、このように素晴らしい成果が達成できたことは驚異的なことだと感じております。これもひとえに、キャンプ滞在中に英国代表団全員が心身ともに健康な状態を維持できるように、そして本大会でのスタートラインに万全の状態で臨むことができるように、惜しみなくサポートしてくださった皆様のおかげです。皆様のお力添えがなければ、今回の成功を収めることはできませんでした。本当にありがとうございました。

大会の閉幕は、私たちのパートナーシップの終わりではなく、むしろ今後の継続的な連携のスタート地点となるでしょう。ここで改めて、運営面で献身的なサポートをしてくださった、チームスタッフの皆様によるハードワークに対して、心よりお礼申し上げます。

また、ボランティアの皆様が示してくださった歓迎の心遣いやボランティア精神にも深く感謝申し上げます。ボランティアの皆様は、選手たちに、数多くの美しい展示を通して日本の文化を紹介してくださり、さらには、毎日温かい笑顔で選手たちに挨拶をしてくださいました。選手たちは、日本文化の展示に大きく感銘を受けるとともに、横浜市を本当にホームのように感じていました。

素晴らしい横浜市の皆様に改めてお礼申し上げるとともに、横浜市のますますのご発展をお祈りいたします。

英国パラリンピック委員会CEO　マイク・シャロック

横浜ホストタウンサポーターインタビュー

新型コロナウイルス感染症の影響により、難題も多かった英国代表チームの事前キャンプは、横浜市の英国事前キャンプボランティア「横浜ホストタウンサポーター」の尽力もあり円滑な運営に成功した。サポーターを代表して参加者6名から、2020年からの活動を振り返り、話を聞いた。

野田謙二さん

バブルを守ることが大切でした

私自身、英国に8年間住んでいたご縁もあり、英国代表チームが東京2020大会の事前キャンプを横浜市で行う時に、そのボランティアの一員になりたいと思い、応募しました。今回のボランティア活動では、コロナ対策が大切だということで、英国代表チームが到着する前に2度のワクチン接種を終えました。手洗い、消毒も人一倍、気を付けていたつもりです。活動中はバブルを守らなければいけないことと、そのために英国代表チームが円滑に動けるように、選手団の方々にもルールに沿って動いてもらうことが重要でした。

けれども、中には自分のわがままを押し出す方もいます。その際にどうやってコミュニケーションを取るかを考え、非常に気を遣いながらお話ししました。人に伝えることの難しさを痛感しましたね。これから横浜で国際大会がある時には、またボランティア活動に参加したいと思っています。

中西麻美子さん

みんなで作り上げるのが楽しい

30年近く、いろんなボランティアを続けています。ラグビー・トップリーグなどの経験もあります。また、横浜は地元ですし、東京2020大会は大きなイベントなので、「これはやるしかない」と応募しました。研修では、横浜市の方だけではなく、英国代表チームの方ともオンラインを通して、密なコミュニケーションを図れたことが印象に残っています。

苦労は特になかったです。楽しかったですし、中でも人生の財産になったのは、同じボランティアの皆さんに出会えたこと。その日、初めて会うグループだったにもかかわらず、まるでずっと一緒にいたかのように、最初から一致団結できました。問題が出てきたら話し合って解決したりなど、みんなで楽しんでやろうという気持ちが一つになりました。みんなで何かを作っていくことが楽しいので、引き続き、横浜市のスポーツボランティアを続けていきたいです。

西松 香さん

選手を送り出した時が印象深い

ラグビーワールドカップ2019™で英国のハリー王子が来日された際に、横浜国際プールがある北山田の英語教室の教え子が、子ども記者として王子にインタビューする機会を得られました。それを機に国際プールで英国代表チームが事前キャンプを行うことを知り、しかもボランティア募集中だと。

東京2020大会に何かかかわりたい気持ちがあったのですが、チャンスがなく、この機会を逃さないようにと応募しました。ボランティア初日は何をやればいいのか理解できず、どうしようという感じでしたが、日を追ってボランティアの方と横浜市職員の皆さんで、いろいろ意見を出し合ったら、何をすべきかが見えてきました。また、英国チームの方からも話を聞いて、すごくいい経験になりました。事前キャンプが終わって、選手団をみんなで手を振って送り出した、お別れの時は寂しかったですが、とても印象に残っています。

只野慶子さん

選手にエネルギーをもらいました

英国代表チームの方からオンライン研修で、事前キャンプの重要性を伝えていただきました。当時は事前キャンプを行う意味を、よく分かっていなかったのですが、英国代表チームがコロナ禍であっても事前キャンプを実施したいという強い思いを、研修中に話してくれたことが印象的でした。個人的にも、ラグビーワールドカップ2019™などの事前キャンプをネットで調べて、イメージトレーニングをしていました。

コロナ禍で人との接触が難しいため、何をしたらいいのか分からなくなり、最初はもどかしかったです。それでもボランティアとして日数を重ねていくうちに、SNSで選手が喜んでくれている姿を見て、自分たちが行っていることは間違いではないと思えました。私はアスリートにはなれませんが、彼らを支えることで良いエネルギーをもらえると信じています。今後もスポーツボランティアを続けていきたいですね。

田邉東彦さん

延期された1年で英語を勉強

5、6年前から横浜マラソンなどのスポーツボランティアをしていたので、ぜひ東京2020大会のボランティアにも参加したいと思い、応募しました。研修ではオンラインでの英国の方の話についていくのが大変でした…。ただ、大会が延期されて1年間の準備期間ができたと考え、英語のヒアリング力を高めようとTOEICを受けたりできたのは良かったです。

英国代表チームとは、コロナの影響もあったため、接する時間は短かったです。それでも会話を楽しむとまではいかないのですが、駐車場やエレベーターホールなどで、いろいろやり取りできたことが印象に残っています。また、何か問題が出てきたら、同じボランティアの皆さんと意見を出し合って解決するといった共同作業が、忘れられない思い出になりました。これをきっかけに、横浜と英国の交流イベントなどが開かれれば、またボランティアとしてお手伝いしたいです。

玉川祐之さん

感謝された瞬間が良い思い出に

もともとラグビーやマラソンが好きで、自分で参加する方だったんですけど、ラグビーワールドカップ2019™の時に支援する側の楽しみを知り、応募しました。研修では、英語で案内する体験が印象に残っています。自主的には、英国の歴史や食事のことなどを本やネットで勉強しました。コロナ禍でも東京2020大会を開催できて良かったと思いますし、大会に参加できたことは非常にうれしかったですね。

本来なら、もっといろんなコミュニケーションや活動の中での交流があったと思います。ただ、少ない時間ながらも、英国代表チームの方々と接して、感謝される瞬間がありました。最後にチームのバッジを私にくれた方がいて、「ありがとう。君たちのおかげですごく助かったよ」と言われました。うれしかったですし、思い出になっています。横浜市のスポーツボランティアには、ぜひ若い人も参加してほしいですね。

ボツワナ
オリンピック代表チーム

●実施期間：2021年7月7日～8月5日
●練習施設：
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス、
武相中学・高等学校

人口約235万人を抱えるアフリカ南部の国・ボツワナ共和国から陸上、水泳の選手・関係者たち24人が参加して行われた横浜市内の事前キャンプ。6月21日に事前キャンプに関する覚書を締結し、キャンプ・イン直前の7月6日に事前キャンプ実施を公表した。日本体育大学 横浜・健志台キャンパスでは陸上競技選手がトラックを使った練習、プールでは競泳選手がそれぞれに練習を行った。武相中学・高等学校ではトレーニングルームが利用され、選手らが汗を流した。

また、今回の東京2020大会では、ここで最終調整を行った陸上競技男子4×400mリレーの代表選手が、同国で唯一のメダルとなる銅メダルを獲得した。

キャンプ中の1日の主なスケジュール

朝食	6:00～8:00頃
練習	6:30～11:00頃
昼食	11:30～14:00頃
練習	15:00～20:00頃
夕食	18:00～21:30頃

※時間は競技・日により異なる

⬆大会後、銅メダルを首に掛けて大さん橋で記念撮影

➡ボツワナ大使館より、事前キャンプ受入れに対するお礼として横浜市に贈られた記念品

ボツワナ
パラリンピック代表チーム

●実施期間：2021年8月13日～22日
●練習施設：
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス、
横浜市スポーツ医科学センター

ボツワナオリンピック代表チームの事前キャンプ中に、急遽、パラリンピック陸上競技チームから事前キャンプ実施のオファーが横浜市へ届き、急ピッチで準備を進めて8月6日に事前キャンプに関する覚書を締結。8月11日に事前キャンプを行うことを公表した。横浜市の事前キャンプの対応が、同国から高く評価されてのことだった。選手団は陸上競技チームの7人で、日本体育大学 横浜・健志台キャンパスをメインに、横浜市スポーツ医科学センターでも練習を行った。

オリンピック代表チーム同様に、毎日の検温やPCR検査、移動時には公共交通機関を使わずに専用車両を利用、練習会場は貸切として、一般市民との接触機会をなくすなど、コロナ対策を万全にして行われた。

⬅パラ陸上競技女子400mT13に出場した選手。日体大 横浜・健志台キャンパスでの直前の調整に力が入る

⬆お揃いのジャージを身にまとい練習

チュニジア
オリンピック代表チーム

●実施期間：2021年7月10日～26日
●練習施設：
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス、
武相中学・高等学校、鶴見スポーツセンター

これまでもホストタウンとして交流を深めていたアフリカ北部に位置するチュニジア共和国。人口約1,169万人の同国から柔道とアーチェリーの選手ら8人の選手団が訪れ、事前キャンプを行った。2021年6月29日に事前キャンプに関する覚書を締結し、7月10日～26日までの期間に、オリンピック選手村へ入るまで日本の気候に慣れる目的などもあり行われた。

日本体育大学 横浜・健志台キャンパスでは柔道選手が柔道場で連日熱の入った練習を行い、武相中学・高等学校や鶴見スポーツセンターではトレーニングルームで、バーベルなど器具を利用して、オリンピックへ向けた調整を行った。

⬆ウエイトトレーニングを行った女子柔道代表選手たち。鶴見スポーツセンターにて

⬆宿泊施設ではコロナ対策のため距離を取って、にこやかに食事を摂る選手たち

⬆チュニジアオリンピック委員会より、事前キャンプ受入れに対するお礼として、横浜市に感謝状が贈られた

スポーツ庁事業参加国のパラリンピック代表選手

●実施期間：2021年8月14日～20日
●練習施設：
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス

スポーツ庁から委託を受けて、中南米や中東、アジア、アフリカ諸国、主に開発途上国・地域のパラリンピック委員会の、東京2020大会の出場支援などを実施する「戦略的二国間スポーツ国際貢献事業」として、日本体育大学が9か国から24人のパラリンピック代表選手を受け入れ、横浜市がサポートした。競技は水泳と陸上で、水泳は2021年8月14日～20日の日程で行われ、セントビンセント、バルバドス、ウルグアイの3か国から計6人の選手が参加。陸上は8月15日～20日の日程で行われ、ザンビア、マラウイ、タンザニア、レバノン、モルディブ、イエメンの6か国から合わせて18人が参加した。

大学内の陸上トラックやフィールド、プールなどを使って、パラリンピック本番に備えての最終的な調整を行ったが、時差や日本特有の高温多湿な気候など、それぞれの母国とは違う環境への適応準備に大きな役割を果たしたキャンプだった。

⬅レバノンのパラ陸上競技代表

➡セントビンセントのパラ水泳代表

⬅ザンビアのパラ陸上競技代表

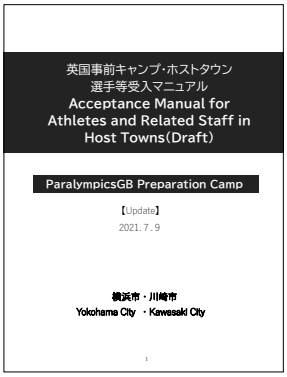
➡マラウイのパラ陸上競技代表

⬅モルディブのパラ陸上競技代表

事前キャンプにおける新型コロナウイルス感染症対策

英国、ボツワナ、チュニジアなど12か国の事前キャンプを受け入れた横浜市は、国等からの指示に基づき、移動、宿泊、練習などの各場面に応じた感染症対策に取り組んだ。具体的には、国が策定する「ホストタウン等における選手等受入れマニュアル作成の手引き」に基づきマニュアルを作成。マスク着用など基本的な対策はもちろん、相手国や関係各所と調整の上、場面ごとの選手団と市民等との接触を避けるための対策や選手等の行動管理、選手及び関係者等へのスクリーニング検査の方法等を策定し実施した。

また選手団は、滞在期間中の用務先を宿泊施設、練習施設、競技会場に原則限定され、用務先と移動手段等を記載した活動計画書と計画書を遵守させる旨の誓約書を提出。横浜市はマニュアルをもとに、選手団の行動管理を行った。選手団及び関係者の徹底した感染症対策により、事前キャンプ中、各選手団からの新型コロナウイルス感染症陽性者は、1人も発生しなかった。



⬅各施設の仕様に合わせた行動可能エリアや動線、手指の衛生方法、換気方法、荷物の取扱、施設器具の消毒に至るまで、マップとともに細かく明記した受入れマニュアル

➡感染症対策以外の項目も網羅した独自のマニュアルも策定。川崎市・慶應義塾大学とともに作成した英国版のマニュアルは140ページ以上に上る

【遵守すべき基本事項（制限・行動ルール）】

(1) 密閉・密集・密接の回避：換気の悪い密閉空間や多数が集まる密集場所、間近で発声や会話をする密接場面を避ける
(2) フィジカルディスタンスの確保：選手等と接触する人は、原則2mの距離を確保
(3) 飛沫対策：全員が原則マスクを着用
(4) 手指衛生：手洗いや手指消毒を徹底
(5) 換気：30分に1回以上、数分間程度窓やドア等を開ける、または換気設備等による換気を行う。 複数の窓やドア等がある場合、2方向開放
(6) モノ経由の接触感染回避：可能な限り、共有使用物の使い回しを避ける。避けられない場合は消毒を実施する
(7) 体調管理：選手等は入国する14日前から毎日の体温や体調等を記録し、東京2020組織委員会に報告。関係者等も活動14日前から毎日の体温、体調等を記録。体調不良や発熱等の症状のある者は活動停止等の措置を徹底する

ゾーニングの考え方

場面ごとの対策を考える際は、一般市民との接触を避けるためゾーニングを徹底し、相手国専用エリアを形成した。エリア内で活動できるのは原則相手国のみ、基本的には空間ごと貸切とし、どうしても選手団と一般市民が交差する公共空間などでは、時間ごとの占有としたり、パーテーションなどで境界線を区切るなど、選手団とのフィジカルディスタンスが確保できるよう、各場面でのゾーニングや動線を設定した。

また、関係者は、具体的な接触場面を想定した上で、相手国との接触可能性ごとにレベル分けし、接触頻度が高い場合は選手団と同様に毎日検査を行うなど、スクリーニング検査の頻度を規定。相手国選手団と市内関係者及び市民、両者を守るため、エリア内を完全にクリーンにするよう、対策を講じた。

⬆英国事前キャンプでは、IDカードをレベルで色分けして、分かりやすく容易に識別できるように管理。ゾーニング設定に向け、英国と何度も協議を重ねた

⬅宿泊施設の選手団専用エントランス。パーテーションとスタッフによりゾーニング

入国

選手団は、出国前96時間以内の2回の検査、入国時の空港での検査に加え、陰性証明の提出が求められた。入国ピーク時には、多くの選手団が空港に到着し、長時間検査結果を待つことも。空港から事前キャンプ地までの移動時は、必ずアテンドが付いた。

⬅選手団専用の動線内を移動

移動

事前キャンプ中の選手団の移動については、原則として専用車両を利用。徒歩で移動せざるを得ない場合は、全員がマスクを着用した上で大声での会話を避け、住民等とのフィジカルディスタンスを確保するため、スタッフ同行のもと移動した。

⬅練習施設への往復の合間にバス内を消毒

宿泊施設

宿泊施設においては、選手等と他の宿泊客との接触を避ける措置として、原則フロアごと貸切とし、他の宿泊客との動線を分離した。食事の際も、アクリル板などで仕切るなど、飛沫対策が徹底され、リネンの取扱いやごみの廃棄方法、清掃方法など、細かい部分も事前に確認が行われた。

⬅駐車場から宿泊施設間も、フィジカルディスタンスを保ちボランティアなどスタッフが同行

練習施設

使用する練習施設すべてについて、基本事項に基づきゾーニングや動線、換気方法、飲食方法が決められた。練習前後には消毒を実施。マニュアル作成の際は、各施設も協力。スタッフ含めコロナ対策を徹底し、万全な受入れ体制構築を行った。

⬅専用エリアが分かりやすいようにゾーニング

スクリーニング検査

選手団は毎日検査を実施。そのほか、運営本部スタッフや、移動時の運転手、宿泊施設・練習施設スタッフ、横浜市関係者などを対象に、選手団との接触頻度に応じて検査を行った。検査方法は唾液を検体としたPCR検査で、結果は原則当日中に判明。キャンプ期間中に横浜市が実施した検査は、約15,000件以上に上った。

⬅検査の際も、フィジカルディスタンスが確保できるように動線を工夫

➡採取した検体は、氏名ごとに確実に管理

医療体制

選手団から陽性者等が発生した場合は、「神奈川モデル」にて対応。英国については陽性疑い時の再検査等を慶應義塾大学と連携して実施することとした。

また、事前キャンプ期間中は、新型コロナウイルス感染症対応や発熱外来に限らず、練習時の外傷など一般傷病の対応が発生する。事前に選手等の受入可能な医療機関を調整したほか、選手団のチームドクターとオンラインなどで対応できる体制を整えた。

ホストタウン

ホストタウンとは、東京2020オリンピック・パラリンピック開催をきっかけに、大会参加国と地域との人的・経済的・文化的な交流を図るとともに、地域の活性化などを推進するため、内閣官房による登録を受けた地方公共団体のこと。横浜市は9か国のホストタウンに登録された。

横浜市のホストタウン相手国（登録順）

英国、イスラエル国、チュニジア共和国、ベナン共和国、ボツワナ共和国、コートジボワール共和国、ブルガリア共和国、モロッコ王国、アルジェリア民主人民共和国

英国
（2016年1月26日登録）

1859年の横浜開港以来、歴史的にも長い関係性のある英国は、東京2020大会の事前キャンプ地決定を契機に、2016年に横浜市の最初のホストタウン相手国となった。登録以降、英国代表チームと調整し、来日機会を捉えた交流事業を実施。英国関係者との交流事業や英国文化に関する講演会、事前キャンプPRによる応援の機運醸成などにも取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症の影響により直接的な交流が難しくなったが、オンラインを活用し、2021年の事前キャンプでも交流を実現。2018年の最初の交流から、市内児童を中心に延べ約2,800名が英国代表チームとの交流に参加した。

●英国代表チームとの交流

2018年度

実施日	英国の交流相手・内容	参加人数
5月11日・12日	英国トライアスロン・パラトライアスロン代表チームとの交流会（世界トライアスロンシリーズ横浜大会）	41人（市内小学生）
9月21日	英国パラ水泳チームとの交流会（2018ジャパンパラ水泳競技大会）	86人（市内小学生）
	合計	127人

⬅9月の横浜国際プールで行われたパラ水泳大会に英国パラ水泳代表チームが参加したことで実現。選手たちの自己紹介の後、児童からの質問やプレゼントの贈呈があり、大会の公式練習も見学した

⬅参加者全員で集合写真

➡選手と児童とのグループワーク

⬆5月の世界トライアスロンシリーズ横浜大会に出場する選手たちとの交流会。選手と児童がグループになって自己紹介や質問したり、交流後には選手たちと試合観戦し一緒に英国を応援。

2019年も交流会を行ったが、2020年はコロナ禍で大会が中止。2021年は交流会はできなかったものの横浜市から応援動画を贈ったところ、英国パラトライアスロンチームから感謝の動画が届くなど、交流が続いている

2019年度

実施日	英国の交流相手・内容		参加人数
5月17日	英国トライアスロン・パラトライアスロン代表チームとの交流会（世界トライアスロンシリーズ横浜大会）		31人（市内小学生）
7月8日	英国水泳代表チームとの交流（世界水泳選手権大会（韓国・光州開催）に向けたプレ事前キャンプ）	歓迎セレブレーション	369人（市内小学生）
7月12日・13日		公開練習	12日：663人（市内小学生）　13日：111人（市内中学生）
7月12日、15日		日本文化体験プログラム	12日：6人　15日：9人（講師等）
7月16日		歓送セレモニー	67人（市内小学生）
		合計	1,256人

●英国プレ事前キャンプ

9日間のプレ事前キャンプ期間を通し、延べ1,225名の市民が参加。

歓迎セレブレーション

⬅練習初日、サプライズで児童が拍手・旗振りでお出迎え。選手たちも思わず笑みがこぼれる

公開練習

➡世界的なトップアスリートの迫力ある泳ぎを間近で見学。熱心に声援を送り、練習後は選手たちへ質問タイムも。リオ2016大会銀メダリストのジェームス・ガイ選手は「3歳まで全く泳げず金づちだったけど、学校に通ってから水泳の楽しさを知り、地元の大会に出られるように頑張って練習を積み重ねた結果、今の僕があるよ」と教えてくれた

日本文化体験プログラム

⬅都筑区で活動する講師ボランティアの協力により、着付け、書道、折り紙体験を提供。家族の名前を漢字で書いて持ち帰る選手も

歓送セレモニー

➡最終日、世界水泳に向かう選手たちにメッセージカードや演奏のプレゼント。最後は児童による花道でハイタッチしながらお見送り

2020年度

実施日	英国の交流相手・内容	参加人数
11月18日	英国オリンピック委員会（マーケティング責任者）によるオンライン授業の実施	22人（市内高校生）

⬆横浜商業高等学校スポーツマネジメント科・国際学科の1～3年生を対象に「英国オリンピック委員会のブランド開発と東京2020大会に向けたキャンペーン」をテーマにオンラインで講演。生徒からの具体的な質問にも、丁寧に回答とアドバイスをもらった

2021年度

実施日	英国の交流相手・内容		参加人数
7月5日	英国水泳代表チームとの交流	応援メッセージ入り旗の作成・掲出、選手団に贈呈	938人（市内小学生）
7月19日		オンライン交流（英国選手・コーチへの質問、エール）	229人（市内小学生）
7月20日		フェアウェル（国際プールから選手村へのお見送り）	197人（市内小学生）
7月28日		英国キャンプディレクターへのオンライン取材	12人（市内小中高生）
		合計	1,376人

⬆オンライン交流会には計8クラスが参加し、画面越しにエールを贈った。選手村へ移動する際のサプライズのお見送りには、選手たちも驚き笑顔。横浜への感謝のメッセージとともに、SNSにも数多く投稿してくれた

●広がる英国との交流

英国の公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルと協力し、英国の先進的な文化や取組を知るための交流や講演を実施。英国からスタディツアーで訪れていた児童との交流事業も実施した。

また、英国事前キャンプ応援の機運醸成のため、関連するイベントへのブース出展やＧＯ ＧＢ英国応援動画を市内各所で放映。英国生まれの世界的人気キャラクター「ひつじのショーン」も、英国と横浜をつなぐ親善大使として、英国事前キャンプの盛り上げに貢献した。市民局だけにとどまらず、文化観光局や事前キャンプ地となる都筑区、港北区など、英国関連事業を実施する区局とも連携。英国ホストタウン関連事業として、2018年から4年にわたり、英国の文化、教育、音楽などの分野において、英国関係者と様々な交流を行った。

英国と横浜を知る講座

➡2018年12月、栗栖良依さんを講師に「英国と横浜を知る講座～英国の共生社会文化から学ぶ～」を横浜市イギリス館で実施。英国オリンピック委員会CEOもゲストとして参加し、慶應義塾大学ケルト音楽愛好会の演奏や、英国の代表的なメニューが並ぶティータイムなど、英国文化を体験できるプログラムに

横浜ローズウィークでブース出展

⬆2019年5月「横浜ローズウィーク」のローズ＆ガーデンマーケットで日本大通りにブース出展。ひつじのショーンオリジナル缶バッチのワークショップや大きなバラを持ったショーンの撮影会は大人気。ブース出展や交流事業に向け、「GO GB 2020」や「ひつじのショーン」をデザインしたPRグッズが作成され参加者らに配られた

BBCスコティッシュ交響楽団との交流

⬆2019年10月、初来日した「ＢＢＣスコティッシュ交響楽団」が市内2校の小学生203人と音楽による交流を実施。ボディパーカッションで一つの曲を作り上げたり、世界的なプロフェッショナルの演奏を聞いたり、伝統音楽で踊ったり。最後は給食を一緒に

英国コヴェントリー市児童との交流

⬅2019年11月、英国コヴェントリー市からオリンピックスタディツアーで来日した児童10名が市内児童・生徒と交流。横浜スタジアムでソフトボール女子日本代表チームと市内小学生の交流会に参加し、横浜国際総合競技場を見学。活動中は市内中高生19名が語学サポートを行った

英国ハリー王子との交流

⬆2019年11月、当時ラグビーワールドカップ2019™決勝戦のため来日された英国王室のハリー王子が、日本のパラスポーツの拠点「日本財団パラアリーナ」を訪問。同席したつづきジュニア編集局の記者たちが交流と記念撮影

英国アーティストの招聘

⬅文化観光局は、2019年10月「ホッチポッチミュージックフェスティバル2019」でバクパイプ演奏家のジェラルド・ミューヘッドさんを招聘。スコットランド伝統のタータンチェックの民族衣装に身を包み、独特の音色のバクパイプを演奏し観客を魅了。横浜のアーティストとのセッションでは相互の文化交流を深めた

日英文化交流講座

⬆都筑区では、北山田駅から横浜国際プールに向かう階段に" GO GB 2020"装飾を設置。さらに、2017年から2019年にかけて、食や自然など日本と英国に共通する文化をテーマに文化交流講座を開催した

港北オープンガーデンとの連携

⬅港北区では、ガーデニングの本場・英国で始まった、個人の庭等を一般開放し季節の草花を楽しむ取組「オープンガーデン」を通じ、英国文化をPR。「ひつじのショーン」のグリーティングやスタンプラリー企画も

イスラエル国
（2018年4月27日登録）

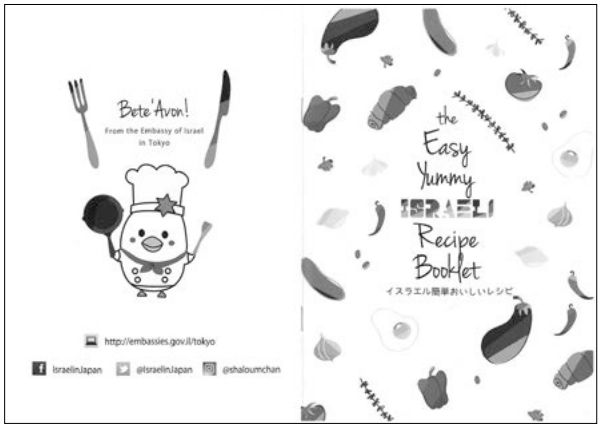
2012年、横浜市がテルアビブ-ヤッフォ市と「交流協力共同声明」を行って以来、記念植樹やダンス、音楽分野での交流を進めている。

ホストタウン応援サイトへのメッセージ投稿

選手や自治体の皆様の声を、広く国内外から集めて発信する応援サイト「みんなでつなげよう！応援の輪＃HostTownMessage」に応援メッセージを投稿した。

横浜スポーツガーデン特設サイトに イスラエル料理のレシピを掲載

大会期間中に市庁舎アトリウムで実施された、展示・体験イベント「横浜スポーツガーデン」の特設ウェブサイトに、ホストタウン各国の料理レシピを掲載した。イスラエル料理のレシピは、イスラエル大使館から提供された。



チュニジア共和国
（2018年4月27日登録）

アフリカ開発会議横浜開催を契機に、小学校での剣道ナショナルチームとの交流、チュニジアの特産品を紹介する物産展やコンサートの開催などを実施。2022年に同国で開催される第8回アフリカ開発会議に向けても交流を深めている。

事前キャンプにおける選手団との交流

以前から交流のあった市内小学校の児童が同国選手たちに向けた応援動画を作成。選手団の食事会場で放映し、とても喜ばれた。また、同校の6年生は柔道の代表選手やエルーミ特命全権大使とオンラインで交流も図り、質問や応援メッセージを贈るなど、多彩な心温まる交流を展開した。そして港北区の5つの保育施設の園児が、選手たちへの応援メッセージを制作し、キャンプ期間中に宿泊施設に掲出された。

⬆小学校児童とチュニジア柔道選手団とのオンライン交流

⬆小学校からの応援横断幕と柔道代表選手団

⬆保育園の応援メッセージとアーチェリー代表選手団

駐日チュニジア大使らが来浜

2021年7月27日に、エルーミ特命全権大使、チュニジア・オリンピック委員会ブサイエンヌ会長、ハシシャ事務局長ら一行と林副市長、横浜市会の清水議長、髙橋副議長との面会が行われた。大使たち一行からは、横浜市や小学校への感謝の言葉などが伝えられた。

チュニジア共和国の官房長官と オンラインミーティング

2021年7月23日に、日本アフリカ友好横浜市会議員連盟の佐藤会長と草間事務局長、横浜市の橋本国際局長が、来日中のワリッド・ダハビ官房長官とオンラインで面会。ダハビ官房長官から、ホストタウンである各都市に感謝の意が伝えられ、横浜市長をはじめ、チュニジアとの交流に取り組んでいる小学校等へ感謝状が贈られた。

ベナン共和国
（2018年8月31日登録）

アフリカ開発会議横浜開催や2013年にコトヌー市との間で行った交流協力共同声明を契機に、市内小学生のベナンへの理解促進や港湾の技術協力などの分野で交流を進めている。

JICA横浜ポートテラスカフェで ベナン料理が登場

本市と市内企業等が連携し企業等主催によるホストタウン関連事業を実施。JICA横浜ポートテラスカフェでは、2021年7月26日～8月1日に「ソース・ゴンボ」を提供。海老とオクラのソース煮で、名物の味を楽しめる貴重な機会となった。

駐日ベナン大使からメッセージ

アデチュブ特命全権大使から市民へのメッセージ動画を公開。「今後も横浜市と共同声明都市であるコトヌー市との交流を深め、ベナンと日本の協力関係を強めていきたい」と話した。

⬆駐日ベナン大使のアデチュブ・マカリミ・アビソラ閣下（当時）

横浜翠陵中学校でベナンに関する 国際協力出前講座を実施

JICAが、アフリカのホストタウンとなっている市町村の中学生に向けた学習教材を作成。2021年7月16日に、横浜翠陵中学校でオンライン出前講座が行われた。

⬆ベナン出身留学生によるオンライン出前講座の様子

ボツワナ共和国
（2018年8月31日登録）

都筑区とボツワナは児童が絵画を交換しあう「都筑・ボツワナ交流児童画展」を2014年から行っている。2016年には同区とボツワナ大使館との間で交流促進に関する共同発表を行った。

事前キャンプにおける選手団との交流

以前から交流のある都筑区内の小学校の児童が、選手に向けた応援メッセージ動画を作成し、選手団の食事会場で放映された。また、児童と選手団とのオンライン交流も行われ、「勝つために何を食べているか」などの質問も飛び出し、親睦を深めた。ほかにも、カサ臨時代理大使が市長、清水議長、髙橋副議長を表敬訪問した。

⬅小学校児童とボツワナ選手団とのオンライン交流

宿泊施設に応援メッセージを掲出

⬆小学校からの応援メッセージとパラリンピック選手団

大さん橋で子どもたちと交流

日本アフリカ友好横浜市会議員連盟による、選手団の市内バスツアーを実施。大さん橋では、横浜に凱旋を果たした選手団と都筑区のボーイスカウトの子どもたちが交流。男子4×400mリレーで獲得した銅メダルを見ることができ、子どもたちにとっても貴重な経験になった。

⬆選手団と子どもたちとの交流の様子

パラアスリートへの応援ソングを披露

横浜市立盲特別支援学校教員の栗山龍太さんが作詞作曲したパラアスリート応援ソング「リアルビクトリー」を宿泊施設で放映。選手らは合唱し、大いに盛り上がった。

⬆教員が歌っている動画を宿泊施設で放映

コートジボワール共和国
（2018年10月31日登録）

横浜市とコートジボワールアビジャン自治区は、2017年交流協力共同声明を発表し、都市課題の解決や若い世代の交流、女性の活躍分野で連携していくことで合意し、交流を進めている。

中学校給食でコートジボワール料理を提供

横浜市の中学校給食にホストタウン相手国応援メニューが登場。2021年6月17日には、コートジボワール発祥の料理「ケジェヌ」が提供された。

⬅鶏肉と野菜を使った煮込みで、コートジボワール発祥の料理「ケジェヌ」

駐日コートジボワール大使が市内中学校を訪問

2021年6月17日にウェヤ特命全権大使が市内中学校を訪問。生徒たちは、応援コールで歓迎した後、あいさつと質疑応答を行い、同じ日に給食で出された郷土料理「ケジェヌ」にも舌鼓を打った。

⬅大使と生徒らの交流の様子。「ケジェヌ」はおいしいと評判だった

ブルガリア共和国
（2019年10月31日登録）

2008年に保土ケ谷区とソフィア市との間でパートナー都市協定を締結。バラの女王の訪問、記念植樹、民族音楽グループの公演、絵画展、料理教室・刺繍体験教室などの交流を進めている。

保土ケ谷区内地区センターでブルガリア料理教室を実施

保土ケ谷区では、2018年よりブルガリア出身の方を講師に招いて、市民を対象としたブルガリア料理教室を区内地区センターで実施。また、試食後に行われるブルガリア講座は参加者に好評だった（2020年～2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止、動画を配信）。

保土ケ谷区内小学校でブルガリア理解授業を実施

保土ケ谷区では2016年度から毎年、区内小学校でブルガリア理解授業を実施している。ブルガリア民族音楽の披露やブルガリア出身者による文化紹介等を通して、子どもたちが理解を深めている。

モロッコ王国
（2019年10月31日登録）

アフリカ開発会議横浜開催を契機として、市内小中学生のモロッコへの理解促進、モロッコ文化・経済の紹介などの交流を進めている。

ホストタウン応援サイトへのメッセージ投稿

内閣官房が運営する、「みんなでつなげよう！応援の輪＃HostTownMessage」で、「たくさんの感動をありがとう」と横浜市からのメッセージが掲載された。

駐日モロッコ大使からメッセージ

ブフラル特命全権大使から市民へ、感謝の気持ちを伝えるメッセージ動画を公開した。

⬆駐日モロッコ大使のラシャッド・ブフラル閣下

アルジェリア民主人民共和国
（2020年2月28日登録）

アフリカ開発会議横浜開催を契機として、市内小学生のアルジェリアへの理解促進や国際イベントなどを通じた交流を進めている。

ローズホテル横浜で週替わりホストタウンランチを提供

本市と市内企業等が連携し企業等主催によるホストタウン関連事業を実施。ローズホテル横浜では、アルジェリア風スープの「チキンとリゾーニのショルパ・ブラン」を提供。

駐日アルジェリア大使からメッセージ

ベンシェリフ特命全権大使から、「オリンピック・パラリンピックが、参加国に対する興味や知識を深められる機会となるよう願っている」とホストタウンに対する感謝の言葉が贈られた。

⬆駐日アルジェリア大使のモハメッド・エル・アミン・ベンシェリフ閣下（当時）

その他の交流

中学校給食で各国料理のメニューを提供

2021年6月17日に、コートジボワールやモロッコの料理を採用したアフリカメニューを提供。7月8日には英国メニューが、7月12日にはブルガリアメニューが提供され、合計38,975食が食べられた。

ホストタウン功労賞を受賞

内閣官房より、ホストタウンの取組において特に顕著な功績のあった個人・団体に、ホストタウン功労者として感謝状が贈られた。横浜市からは、英国事前キャンプ横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」、KEIO 2020 project（慶應義塾大学体育研究所）、横浜市立保育園、横浜市内小学校が受賞した。

オリンピック開催250日前オンラインイベント

2020年11月29日に行われた「250 Days to Go! オンラインフェスティバル for Tokyo2020 in 横浜」のホストタウン相手国応援ステージ。コートジボワールをはじめとしたアフリカ音楽とダンスを披露。

⬅アフリカンバンド「サブマンド」がアフリカ伝統音楽を演奏

日本アフリカ友好横浜市会議員連盟による選手団激励

日本アフリカ友好横浜市会議員連盟の佐藤会長、草間事務局長が、市内で事前キャンプを行うボツワナ共和国・チュニジア共和国の選手団を激励。東京2020オリンピック・パラリンピックでの活躍に期待を寄せた。

⬆十分な距離をとって選手を激励

➡チュニジアの柔道代表選手たちの宿泊施設を訪問

「アフリカとの一校一国」交流校による応援動画のホームページ掲載

アフリカのホストタウン相手国6か国と交流のある市内小中学生約1,200名が、相手国へのメッセージ動画を作成し、各国選手団を応援した。各国大使のメッセージ動画とともにホストタウン公式サイトに掲載し、9月30日まで配信された。

駐日アフリカ大使からの市民へのメッセージを公開

ホストタウン相手国であるチュニジア、ベナン、ボツワナ、コートジボワール、モロッコ、アルジェリアのアフリカ6か国の大使らが、横浜市民へ感謝の言葉を述べたメッセージ動画を掲載。動画は2021年9月30日まで公開された。

選手団や大使館へフォトブックを贈呈

市内で事前キャンプを実施したボツワナのオリンピック・パラリンピック代表チーム、チュニジアのオリンピック代表チームに対し、横浜市が事前キャンプの記念品としてフォトブックを制作。選手関係者や各国の大使らに贈呈した。横浜市の魅力の発信や、各国との親交をさらに深めてくれた。

市内企業によるホストタウン関連事業を実施（下表）

市内企業等と連携し、企業等が主催するホストタウン関連事業を実施。約17,000人の市民が参加した。

日程（2021年度）	開催企業	実施内容
6月29日～9月5日	横浜人形の家	9か国の人形展示
7月1日～9月5日	ヨコハマグランド インターコンチネンタルホテル	ホストタウン相手国メニューの提供（英国、モロッコ、チュニジア）
7月5日～9月3日	ローズホテル横浜	ホストタウン相手国メニューの提供（イスラエル、チュニジア、 アルジェリア、ブルガリア、英国、コートジボワール、モロッコ）
7月19日～8月29日	JICA横浜	ホストタウン相手国メニューの提供（アフリカ6か国）
7月22日～28日	そごう横浜店	英国フェア
7月22日～9月5日	横浜ワールドポーターズ	ホストタウン相手国応援展示
7月29日～8月4日	京急百貨店	ホストタウン相手国応援フェア（英国、イスラエル）

各区施設等と連携したホストタウン展示及び広報活動等

日程	開催施設等	実施内容
2020年1月15日~2月14日	横浜市中央図書館	ホストタウンパネル展示
1月8日~25日	横浜市営地下鉄横浜駅改札	デジタルサイネージを活用したPR
2021年5月7日~31日	鶴見図書館	スポーツ関連書籍の展示及びホストタウン展示
6月~9月	市庁舎	デジタルサイネージを活用したPR
6月6日	港北国際交流ラウンジ	英国についてのお話及びホストタウンについての紹介
6月15日~17日	市庁舎アトリウム	聖火リレートーチ展示期間におけるホストタウン展示
7月	広報よこはま	7月号でのホストタウン紹介
7月	東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜版ウェルカムガイドブック	ホストタウン紹介
7月5日	こどもタウンニュース	ホストタウン紹介
7月21日~8月8日、 8月24日~9月5日	市庁舎アトリウム	横浜スポーツガーデンにおけるホストタウン展示及び ウェブサイトへの各国レシピ掲載
7月22日~8月6日	泉区役所ホール	東京オリンピック×読書×多文化コラボ展示におけるホストタウン展示
11月20日~21日	ほどがや国際交流ラウンジ	「ほどがや国際フェスタ」におけるホストタウン展示

共生社会ホストタウン

パラリンピアンとの交流をきっかけに、共生社会の実現のため、ユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリーの取組を実施する自治体を「共生社会ホストタウン」として内閣官房が登録する制度。横浜市は、それまでの共生社会の実現に向けた取組が認められ、2019年12月17日に「共生社会ホストタウン」に登録された。

宿泊施設バリアフリー化促進事業費補助金

東京2020大会を契機に、横浜を訪れる高齢者、障害者等の安全で快適な宿泊環境を整えるために、横浜市内の既存の宿泊施設をバリアフリー化する取組について助成する制度。

【実績】

●2019年度

ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
【改修内容】
客室・共用トイレの手すり改修、客室のカーテンレール整備、バスボード・シャワーチェアの設置等

横浜ロイヤルパークホテル
【改修内容】
客室のカーテンレール整備、シャワーチェア、トイレ背クッションの設置等

●2021年度

横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ
【改修内容】
バリアフリールームのハンガーバーの高さの改修、共用の多目的トイレをオストメイト付きに改修

⬆跳ね上げ式手すりへの改修

⬆シャワーチェア

インクルーシブデザインオンラインセミナー

2020年12月11日、ロンドン2012パラリンピックのレガシーとして設立された、グローバル・ディスアビリティ・イノベーション・ハブ(GDI Hub)のディレクター、イアン・マッキノンさんが「スポーツ施設におけるインクルーシブデザイン」をテーマに講演を実施。当日は、英国の知見を元に市内のスポーツ施設についてアドバイスなどもあった。

➡英国からオンラインで講演

バリアフリーマップまちあるき

2020年12月13日、競技会場や聖火リレーのルート等、大会に関連した催しの場となる関内や赤レンガ倉庫周辺を誰もが安心して訪れることができるよう、「バリアフリーマップ」を作成するため、NTT クラルティ(株)の協力のもと、車いすを使用して、まちあるきを実施。参加した子どもたちからは、「障害のある人の気持ちを知ることができ、たくさんの発見があった」などの感想が寄せられた。

⬆赤レンガ周辺をまちあるき

⬆作成されたバリアフリーマップ

「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020」における共生社会の実現に向けたシンポジウム

障害者と多様な分野のプロフェッショナルによる現代アートの国際展「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020」において、2020年11月20日にシンポジウムを実施。2014年から続く活動で得られたものや課題、障害者の文化芸術活動の今後のあり方などについて、アート、福祉、まちづくりなど、様々な視点からディスカッションを行った。

オンラインセミナー「英国パラリンピアンからのメッセージ」

パラ水泳の英国パラリンピアン、スージー・ロジャースさんを講師に招いて、共生社会を考えるオンラインセミナーを2021年3月19日に開催。パラアスリートとしての自身の体験談やパラリンピックの意義などの話があった。

➡日英同時通訳で一般公開